

非専門医（眼科）を対象とした肝炎ウイルス陽性者診療連携の取り組み

研究分担者：柿崎 暁 群馬大学医学部附属病院 消化器・肝臓内科 客員教授
研究協力者：戸島 洋貴 群馬大学医学部附属病院 肝疾患センター 病院講師
研究協力者：戸所 大輔 群馬大学医学部附属病院 眼科 准教授

研究要旨：肝炎ウイルス検査は検診以外でも、入院時検査や手術前検査などで検査を受ける機会がある。当院では、入院時あるいは術前検査で、年間約12,000件の肝炎ウイルス検査が行われている。眼科は手術件数が多いため、検査件数が最も多く、陽性者数も多い。我々は、これまで非専門医を対象に、院内講習会での啓発、電子カルテによる受診勧奨メッセージ、非紹介要因の解析等、院内非専門医との連携強化による肝炎治療受療率向上のための取り組みを行ってきた。今年度は、非専門医の中で、特に眼科対策に取り組んだ。眼科医を研究協力者に加えることにより、肝臓専門医だけではなく、眼科医の立場から、非紹介患者の背景、眼科患者特有の要因を検討した。病院眼科だけでなく、眼科クリニックでの術前検査、肝炎結果説明状況、紹介状況について検討した。院内眼科への取り組みとして、病棟クラークを肝炎医療コーディネーターに養成した。病棟クラークを活用して、検査結果通知、紹介での眼科医の負担軽減を試みた。

A. 研究目的

肝炎陽性患者の適切な受療のため、入院時・手術前検査で判明した肝炎ウイルス検査陽性者の受療率向上を目的とする。

入院時・手術前検査は、非専門医によって行われており、患者への検査結果の通知、受診勧奨は、担当医や診療科によっても異なる。これまで、院内非専門医を対象に、院内講習会での啓発、電子カルテによる受診勧奨メッセージ、非紹介要因の解析等、院内非専門医との連携強化による肝炎治療受療率向上のための取り組みを行ってきた。

今年度は、手術件数・検査件数が最多で、陽性者数も多い眼科に特化し、眼科医の研究協力のもと、肝臓専門医だけでなく、非専門医（眼科）の視点にたった対策を検討する。

B. 研究方法

肝臓専門医と非専門医（眼科）で情報共有・連携を行うことにより、診療科の特性を理解し、診療科に特化した肝炎受療率向上への対策を検討する。

- 群馬県眼科医会会員を対象とした肝炎検査に対する意識調査
- 眼科クラーク肝炎医療コーディネーター養成

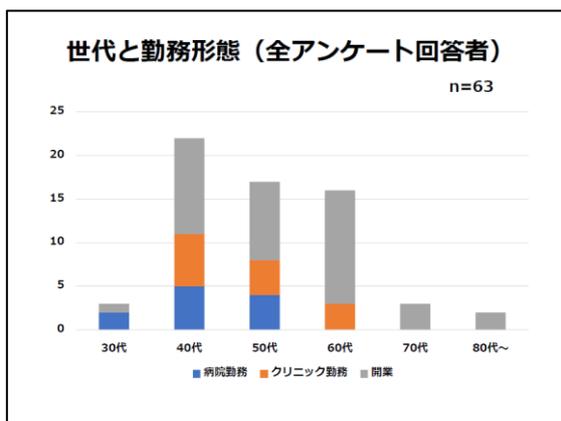
（倫理面への配慮）

個人情報に配慮し、院内倫理委員会の承認を得た。

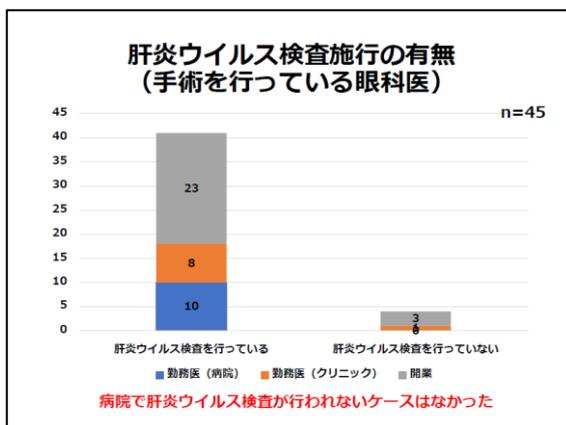
C. 結果及び考察

- 群馬眼科医会会員を対象とした肝炎検査に対する意識調査

眼科診療所も含めた眼科での肝炎検査の状況、説明、紹介に対する眼科医の考え方を把握することを目的に、群馬眼科医会会員を対象に、群馬眼科医会及び群馬県保健予防課の協力のもと、アンケート調査を行った。会員179名（A会員/診療所管理者79名、B会員/勤務医94名、C会員/研修医6名）に対し、アンケート用紙を郵送し、無記名で回収した。63/179(35.2%)の回収率であった。

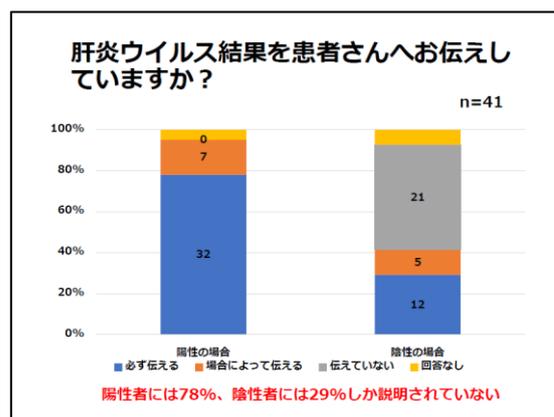


A会員は50.6%と比較的良好な回収率を得られたが、B, C会員は22.0%と低かった。病院勤務医の回収率が悪かったが、複数の医師が勤務している施設では、代表が回答していたためと考えられた。病院内では方針が統一されており、回収率は低かったが、病院勤務医の状況はある程度全体を反映していると推察された。

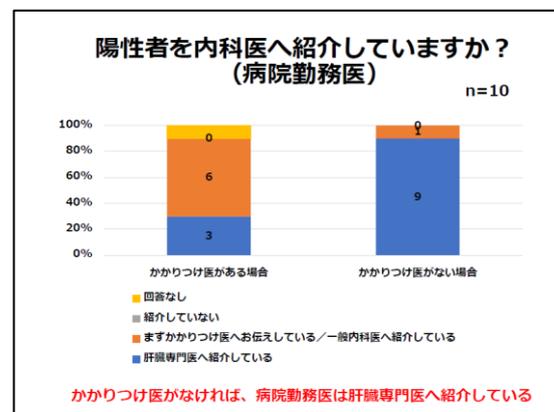
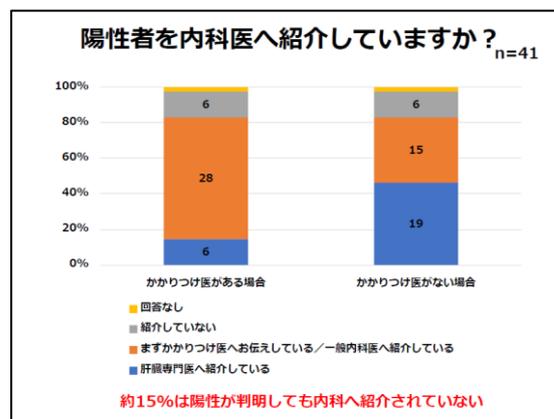


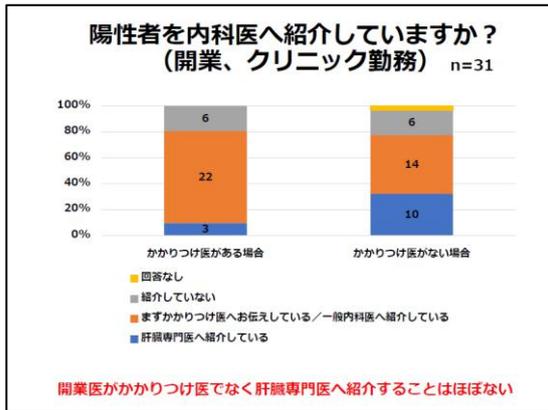
30歳代から70歳代までの医師が手術を行っており、術前肝炎検査は、70歳代と一部の40歳代の医師は行っていなかった。病院は、全施設実施していた。

肝炎ウイルス検査結果については、陽性者には78%で伝えていたが、陰性者への結果説明は29%であった。



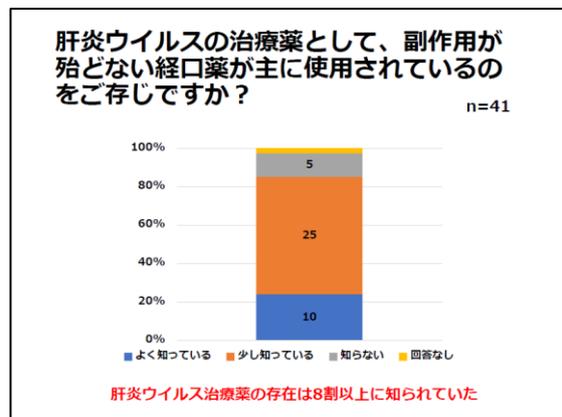
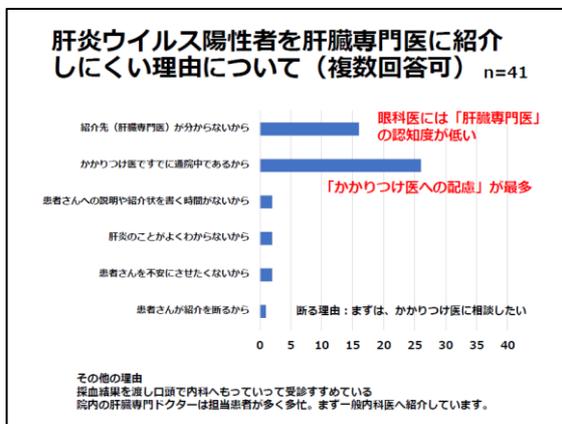
紹介に有無に関しては、約15%は陽性が判明しても内科医へ紹介されていなかった。





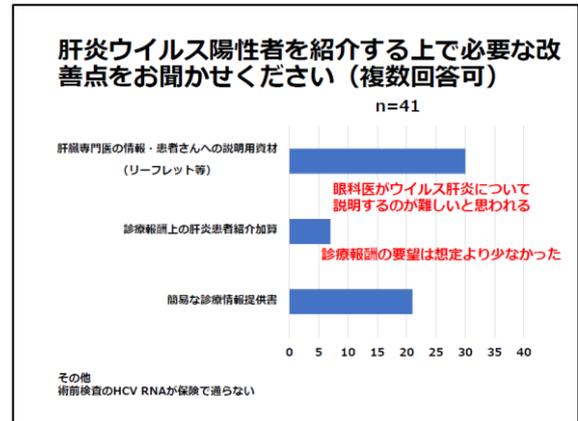
勤務形態別では、病院勤務医は、かかりつけ医がいなければ、肝臓専門医へ紹介していた。一方、開業医が、かかりつけ医でなく、肝臓専門医へ紹介することはほぼなかった。

肝炎ウイルス陽性者を肝臓専門医に紹介しにくい理由としては、「かかりつけ医ですすでに通院中、紹介先(肝臓専門医)が分からないから」が多かった。要因として、かかりつけ医への配慮、眼科医には肝臓専門医の認知度が低いことが挙げられた。

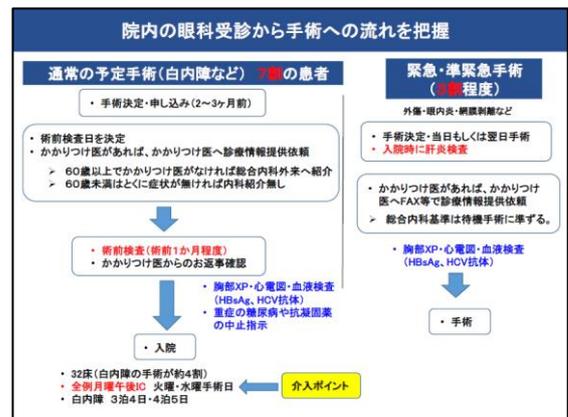


経口ウイルス剤に関しては、8割以上が知っていた。

肝炎ウイルス陽性者を紹介する上で必要な改善点に関しては、肝臓専門医の情報・患者さんへの説明用資材が挙げられ、診療報酬の要望は想定より少なかった。



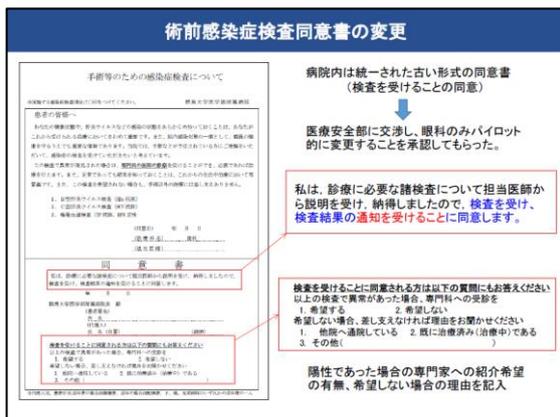
➤ 眼科クランク肝炎医療コーディネーター



眼科の手術までの流れを把握し、介入ポイントと眼科担当医の業務負担軽減を検討した。病棟クランクを肝炎医療コーディネーターに養成し活用することとし、今年度は、眼科病棟において2名の肝炎医療コーディネーターを養成した。

同時に、術前感染症検査同意書を変更し、検査を受け、検査結果の通知を受けることへの同意、陽性であった場合の専門医への紹介希望の有無、希望しない場合の理由を

記入するようにした。



病棟クラーク肝炎医療コーディネーターを活用し、眼科医の肝炎結果説明の負担を軽減するために、検査結果説明書、初回精密検査費用助成案内、簡易型院内紹介状等のセットを作成した。



D. 考察

かかりつけ医がいる場合、眼科開業医から肝臓専門医へ直接紹介することへの抵抗感は大きく、かかりつけ医から肝臓専門医への紹介を促すように文面を工夫した診療情報提供書を検討する必要がある。

紹介先（肝臓外来）が分からないという意見に対しては、地域の肝臓専門医のリスト（常に更新されるもの）を周知・配布する必要であると考えられた。

眼科医が、ウイルス肝炎の説明をするための説明用資材、紹介状のひな形を作成することが必要と考えられた。

眼科クラークを肝炎医療コーディネーターに養成し、眼科医の負担軽減と検査結果説明漏れを防ぐ取り組みを始めた。次年度以降にその効果を検証する。

E. 結論

眼科医の研究協力のもと、肝臓専門医だけでなく、非専門医（眼科）の視点から介入方法を検討した。意識調査からは、かかりつけ医への配慮、紹介先（肝臓専門医）不明が要因として挙げられた。文面を工夫した診療情報提供書、肝臓専門医リストの配布が対策として考えられた。

F. 政策提言および実務活動

研究班活動に加えて、群馬大学附属病院肝疾患センター・副センター長、群馬県肝炎対策協議会委員として、群馬県保健予防課、肝炎対策協議会、肝疾患診療連携拠点病院と連携し、群馬県内の肝炎に関する総合的な施策の推進活動及び肝炎撲滅対策に取り組んでいる。

G. 研究発表

1. 論文発表
なし

2. 学会発表

- * 三上 有香, 戸島 洋貴, 中島 有香, 柿崎 暁. 肝炎医療コーディネーターによる電子カルテを使用した非専門医へのHCV抗体陽性者受診勧奨. 肝臓 61 Suppl A241, 2020

3. その他

啓発活動

- * 柿崎 暁, 戸島 洋貴: 群馬肝炎医療コーディネーター養成研修会企画 戸島 洋貴「肝臓の検査について」

戸島 洋貴「肝臓病の食事・日常生活の
注意点」

柿崎 暁「ウイルス性肝炎・肝硬変・
肝臓について」

柿崎 暁「肝炎に関する県の助成制度
について」

令和2年9月24日～10月26日 WEB 開催
主催：群馬大学肝疾患センター
前橋市

* 柿崎 暁, 戸島 洋貴：肝臓病教室
企画

戸島 洋貴「ウイルス性肝炎の治療と
治療後の通院の必要性について」令和
3年2月22日～3月22日 WEB 開催
主催：群馬大学肝疾患センター
前橋市

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし